

ID

患者氏名 様

病名








予想される入院期間 4～7日

入院予定表

主治医

説明医

立ち会い看護師

	入院日 ()	2日目～	退院日
治療	点滴を持続して、必要な水分、電解質、糖분을補給します。嘔吐が続いている時は無理せず消化管の安静につとめます。 症状、検査の結果次第では抗生剤を投与します。 下痢での皮膚炎予防に軟こうを処方します。	 点滴が使えなくなった場合は刺し直すことがあります。 食事開始のタイミングで整腸剤をはじめます。	嘔気がおさまらず水分が摂れるようになったら、点滴は減らし中止します。
検査	採血 (検尿) レントゲン	電解質バランスが崩れている場合は採血を頻回に行うことがあります。 病状や経過によっては検査を追加することがあります。	
日常的な検査	体温、脈拍、血圧等を測りに伺います。 体重を測ります。 便/尿の回数や量を記録します。		
食事/栄養	禁食・飲水可。飲水も不可の場合は指示が出ます。 OS1、イオン飲料、リンゴジュースをおすすめします。	症状がよくなってきたら水分から少しずつ始め、水分が摂れるようになってきたら食事を始めます。	
特別な栄養管理の必要性	今回の入院では栄養指導の予定はありません。		
安静度/運動	症状が落ち着くまではベッド上で安静にしてください。	お付き添いの方の買い物等で、乳幼児の患者さんがひとりになる際は、スタッフにひと声おかけ下さい。前後では手洗いの徹底をお願いいたします。	
トイレ	トイレに歩いて行けます。点滴の管に注意して下さい。 (持続点滴中は普段より尿量が増えることがあります。)		
清潔	清拭(体を拭きます。)		
説明	胃腸炎による脱水で入院しました。点滴で水分補給を行いながら、消化管の安静を保ち身体の回復を待ちます。食事ができるようになったら、整腸剤の内服治療を開始します。また、熱が下がり、嘔吐なく飲食ができるようになれば、下痢が続いていても退院できます。乳幼児でおむつを使用している場合は下痢によるおしりの荒れ予防・治療のために軟膏が出ますのでおむつ替えの際に塗ってください。また、ウイルス性胃腸炎(嘔吐下痢症)は感染力の高い(うつりやすい)病気です。お世話をする保護者の方々や他の患者さんに感染を拡大しないよう別紙「胃腸炎で付き添い入院されているご家族の方」を見ながらご協力をお願いいたします。	 分からないことなど、何でも結構ですので、看護師にお声かけ下さい。	 回診のときに医師が病状を説明します。 ★看護師が退院後の注意点について説明します。 ★また、診察券をお渡しします。
ご希望・ご要望がありましたらご記入下さい。			

※病名等については、今後検査等を進めていくにしたがって変わる可能性があります。

※入院期間については、現時点で予想されるものです。

上記の内容について説明を受けました。

患者氏名 _____

家族氏名(続柄) _____

(自筆の場合、押印は不要です。)

060380XXXX0XX-0821-2.0
060380XXXX0XX-0823-2.0
060380XXXX0XX-0824-2.0
060380XXXX0XX-0825-2.0

